丘友會報

鈴鹿高女・亀山高校同窓会

(亀山市本町1の521 ℡05958―2―1518)

母校に魅力を

丘友会会長　森淳之祐

今、我々の企業は発想の大転換を迫られて居ります。それはいうまでもなく、急激な円高と貿易摩擦に伴う、産業構造の変革と国際水平分業化の促進であろうと思います。

つまり、従来のなにもかも輸出するという日本の産業構造の大転換を迫られているということであります。このことは米国をはじめ世界中が日本に声高に求めている方向であることからであります。

そこで学卒の新しい人材を求める我々企業側からしても、又これから社会へ巣立って行く後輩諸君にとっても、これから求められる人材については、今考える時であろうと思います。規模の拡大を目標とした高度成長期に求められて来た人材は、学業成績に重点を置いた、無難なゼネラリスト型を多く採用し、その中から将来の幹部要員を選別していく方式が主流であったと思います。しかし、現今の企業を取り巻く厳しい内外の経済環境、特に量的拡大が見直され、各企業が新たなビジネスチャンスの開拓や、粗織の活性化をはからねばならない時代の人材の資質は、かつての均質的なものから、個性、創造性、バイタリティを最重視する方向に変りつ、あるものと思われます。すべて平均的水準を満たす「偏差値人間」よりも、学問、スポーツなどの分野を問わず、何か一ツ抜きん出た人材が求められるのではないかと思います。

その意味から学校においても学問、スポーツ、又は文化部のクラブ活動を通じて、個性化教育に全力をあげ、人間形成に独自のプログラムを開発願えるような施策の必要性を感じるものであります。我が母校の後輩たちが、何か一ツ、まわりの者よりも抜きんじたものを持って三年間の青春を送り、それをこれからの産業界にぶっけて行けるとするなれば、何とすばらしいことでありましょう。その為には私たち丘友会の皆様方も母校に対する協力はおしまないことと思います。むしろそれを期待されているのではないでしょうか。

本年は新しく渡辺校長先生が就任いただきました。先生方も先輩の皆様方の期待にそうよう、はりきっていただいて居ります。学生諸君!!亀山高等学校は地域での唯一の最高学府であり、今では二万名にならんとする優秀な先輩方を有し、各地において活躍をされて居られます。

どうか自信を持って、胸を張って卒業していただくために何でもよろしいから何か一つに精力を集中し三ケ年間の青春を有意義に過ごされる事を心から期待するものであります。

母校の良くなることを望まない者は一人としていないものと思います。先輩は勿論のこと地域住民も、先生も、生徒も、全員が一丸となって、我が母校亀山高等学校に学んでよかったと言われるような、すばらしい学園づくりをしたいものだと思います。どうか皆様のお力添えを心からお願いいたします。

本年も先輩方に丘友会新聞をお読みいただけます事を感謝し、今後益々御健勝を心からお祈り申上げます。

巷の雑感

学校長　渡辺泰三

梅雨空のうっとうしい風景の中に紫陽花が色鮮やかに咲き揃っているのが見かけられる今日この頃でございます。

同窓の皆様方には日頃母校のために何かとご助言、ご援助を賜わり感謝いたしております。私、中川校長の後任として四月着任いたしました。前校長同様よろしくご支援下さいますようお願い申し上げます。

歴史と伝統に輝く本校を同窓の方々のご期待にそう、又、地域に貢献し得る学校にすることの重責を痛感いたしております。いかに伝統があるとはいえ最近のように変動のはげしい社会情勢と多様化された生徒をかかえる総合制高校として新しい学校の姿を創造していくことが常に必要なことであると申せましょう。

臨教審第三次答申は生涯学習体系への移行、情報化、国際化への対応等の視点から改めて「開かれた学校」の推進を提言しております。学校の施設、機能を地域へ開放し、又地域の方々のご意見を学校運営に生かすよう求めております。

亀山市の唯一の県立総合制高校として地域に貢献し得る学校に、又生涯学習といわれるように私達は一生修養し広く豊かな人生をきづいていかねばなりません。その骨組づくりが学校教育の仕事であり、高校時代は自らの生涯を方向づける重要な時期でもあります。学力の充実、進学、就職等きめこまかな進路指導、部活動をさかんにして豊かな人間性、強靭な気魄をもつ若者を育てるよう全教職員が一丸となって頑張る所存でございます。

クラブ後援会ではさる五月二十一日チャリティーゴルフ大会を計画していただき好天にもめぐまれ同窓各位をはじめ多数のご賛同を得て実施されましたことに紙面をおかりして厚くお礼を申し上げます。丘友会、クラブ後援会、PTAとご支援をいただく各位のご期待に答えるべく本年度も部活動の面で県総体ではウエイトリフティングで五名が全国総体へ、柔道(女子)では団体で三位、個人の部では一位、二位、三位と四名が東海総体へ、剣道(女子)団体で三位、ハンドボールでは女子四位、男子ベスト八位、陸上部では百米ハードル五位、砲丸六位で東海総体への出場権を得る等数々の好成績をおさめております。

二十一世紀への新しい情報化、国際化社会に向けての魅力ある、特色ある学校づくりが当面の本校の課題といえましょう。総合制高校の利点を生かした学校づくりに努力いたす所存でございますので先輩同窓各位のご支援、ご協力をお願いいたしまして着任の挨拶とさせていただきます。

思いのままに

丘友会副会長　天野せつ子

幼い頃からよく遊んだ友と、四十年ぶりの再会に一瞬の戸惑いをお互い感じたものの、いつしか青春時代のタイムカプセルがとり出されていきました。そんな友と友とのふれあいは、心と心のつながりとなって和やかな輪を広げます。娘の、息子の結婚、そして可愛い孫自慢、ほほえましい話題に時は流れていきました。同期の友との暖かい交流は当然のことながら、卒業年次こそちがうものの、亀山高校同窓生(丘友会会員)ということで親近感を覚えるのです。

丘友会号での信濃路へのお座敷列車、そしてクラブ後援会のゴルフコンペ、地域社会での交流など更に同窓の輪が大きく広がっていきます。卒業年次の壁はとっくに吹っ飛んでしまうのは私の性格かも知れません。社会でのいろいろの場でお互い親交を深め、異った視点からのアドバイスに恩恵を蒙っているこの頃です。

丘友会総会の出席者の方々のなかには、鈴鹿高女当時の諸先輩がいつも元気なお顔をみせていただきとっても嬉しく思っております。その反面、新しい世代の方々のお顔が少ないことを淋しく思う次第です。総会のあり方に魅力づくりが足りないのだろうか、フィーリングが合わないのだろうかと、思いわづらいながらも、年代の差こそあれ、母校に学んだその連帯の輪は、みえない糸であいつながっているのではないでしょうか。人と人とのふれあいこそ社会での協力と融和の道に続くものと思います。

自主自立の校訓のもと学生生活を過ごしている後輩の為に、進学に、就職に、丘友会諸先輩の有形無形のバックアップこそ必要なことと思われます。

丘友会会員の皆様、年一回の集り(丘友会総会)に是非お誘い合せの上、ご出席下さいます様お待ち致しております。

クラブ活動後援会に御理解を

クラブ活動後援会会長　村山昌弘

亀高のグランドに立ち元気な生徒のクラブ活動を見ていると、過ぎし三十数年前の我が学生時代の血と汗の猛練習が、むしょうに懐しく思い出されます。

今は校舎も、もう当時の面影はなく木造が鉄筋に、講堂が県下最大の体育館に、そしてグランドも拡張され、運動施設も整備充実されました。

しかしクラブ活動の成績は近年誠に低調で、ウェイトリフティング以外は淋しい限りであったと思います。ところが昨年、女子バレー部が突如九年間無敵の松阪女子高を破り、県大会で優勝してからは連鎖反応を受けたかのように、他のクラブも急激に力を付けてまいりました。

校長先生が「運動クラブに明るさが見えてきました。二・三年先が非常に楽しみです」と云ってみえましたが、校長先生の云われる楽しみは後援会にとっては苦しみでもあるのです。部活動が活発になり強くなればなる程、用具、設備、選手の遠征費等の助成も、より増額していかなければなりません。しかしこの苦しみを私達後援会は待ち望んでいます。

今日の経済の著しい変化や停滞にもかかわらず、多くの卒業生の皆様をはじめ、市内や近隣の理解ある方々のご協力をいただき会員も年々増加していることに深く感謝いたしております。

後援会では、昨年より、「チャリティゴルフ大会」を開催し、会員の拡大と親睦を図ると共に資金集めを目的とした事業を行っています。このチャリティゴルフ大会が非常に好評で、美しい大自然の緑の芝生の上で同窓会が楽しめると、遠くは東京、大阪、名古屋から多数のOBが集い、一五〇名を越える先輩、後輩でたいへん盛会となっております。

このようなイベントを通じ「集団」による入会促進と「個」による積極的な浸透作戦で後援会の増強運動を展開しています。

丘友会の皆様、本会の主旨を充分御理解いただき、是非母校の後輩のために、そして本校各クラブが輝かしい伝統を作りあげていけるように一人でも多くの入会をお願い申し上げます。

会費は次の通りです。

A会員　年額　三、〇〇〇円

B会員　年額　一、〇〇〇円

特別会員　年額　一〇、〇〇〇円

銀行振込が出来ますので詳しくは校内事務局へお問い合せ下さい。

総会のお知らせ

第三十回(昭和六十二年度)丘友会総会を次のように開催します。ぜひご出席下さいますようお願い申し上げます。

なお、これをもって正式通知とし、各会員宛には案内状をさしあげませんのでご了承下さい。

一、日時　八月二日(日)　午前10時学年幹事会　午前10時30分　総会

一、場所　亀山高等学校第一棟大会議室

一、議題

1、六十一年度経過報告決算報告に関する件

2、六十二年度事業計画予算案に関する件

3、役員改選の件

4、その他

尚、総会出席者には記念品をさし上げます。

第七号　丘友会名簿　発行に御協力を

会則により来る昭和六十三年秋、第七号丘友会名簿を発行する運びとなりました。

内容の充実した実用性の高い名簿は会員各位の絶大なる御協力と御理解なくしてはその実現は期待できません。一人一人の少しのお手間をいただくことが経済的にはいうまでもなく、広い意味で莫大な価値につながるものと確信しております。

つきましては、次に名簿の発行に関し御案内旁々、お願いごとを列記しましたので皆様の御協力をお願い致します。

◈発行日　昭和六三年十月

◈価格　一冊五千円(送料込)

◈発行費補助のため広告並びに協賛金を募集

◈広告は一頁大四万円・半頁大二万円・四半頁大一万円(応募者には追って御案内)

◈協賛金は一口一万円(同封払込用紙にて)

◈広告・協賛金に応募の方には名簿は進呈。

◈消息不明者調べ

別紙同封のリストに知人友人・御家族の方の名前がありましたら、是非消息をお知らせ下さい。又、クラス会・同級会等の名簿がありましたらお貸し下さい。

◈名簿希望の有無・紹介の有無にかかわらず調査カードは必要事項記入の上必ず投函下さい。

教職員の異動

◎転入

校長　渡邊　泰三　名張高校から

教諭　中原　勛　四日市高校から

〃　印田　清紀　津商業高校から

〃　寺本久仁男　名張桔梗丘高校から

〃　駒田　満　明正中学校から

〃　藤田　浩永　紀南高校から

〃　水谷　明弘　新採用

実習助手　須藤恵美子　石薬師高校から

事務長　麻生　正　土木部監理課から

主査　山崎　郁子　津西高校から

主事　長屋由紀枝　看護短大から

◎転出

教諭　和田三喜夫　上野商業高校へ

〃　横山　信樹　四日市西高校へ

〃　小林　和彦　津東高校へ

〃　桜井　景子　白子高校へ

〃　前川　訓子　津商業高校へ

実習助手　伊藤　幸子　神戸高校へ

主事　鈴木由美子　稲生高校へ

司書　新　敬子　名張桔梗丘高校へ

◎退職

校長　中川　亮太

事務長　藤井　宏男

教諭　曽我　幸夫

(引続き特別講師)

昭和61年度進路状況と今後の課題について
進路指導部より

昭和61年度卒業生四百七十一名中進学二百十三名（四五・二%）就職二百三十名（四八・八%）家事其の他二十八名（六%）でした。

4年制大学

4年制大学へは四十名でその内訳は推薦入学で合格した者が二十九名で一般入試で合格した者は十一名でした。この現状が示すように四年制大学への進学者のうち三分の二以上が推薦入試により合格しています。本校の場合は女子で成績上位者がかなり就職していますので保護者の理解と協力を得て一年生から進学するように指導できれば国立大学や四年制大学へ進学できる数が増加出来るのではないかと考えます。たとへ推薦を希望する生徒であっても進路のしおりにも示したように「推薦」だからラク」という考えは通用しないこともあり一般入試に向けて対策を十分してもらいたいと思います。

短期大学

高田・暁・松阪・鈴鹿の各短大も年々レベルが上がってきており人物・学業面をきびしく問う傾向を強めており推薦であれ試験であれしっかりとした取り組みが不可欠であることを強調しておきたいと思います。

各種専修学校等

医療系を除き入学自体は比較的容易な傾向にありますが反面で選択分野に関して十分な関心と意欲がないと長続きしません。又高着の入試レベルは相当高く四年制大学の一般入試のレベルとほとんどかわりません。本年は、8名が医療系の学校（三重大医学部附属看護学校を含めて）進学しましたがかなりそれぞれが努力した結果だと考えます。特に高看については入学試験の実施日および合否結果がわかる日が2月下旬から3月にかけて非常に遅いので高看の志望者はもしだめだったら後がないくらいの気持ちを持って取り組まなければならないでしょう。

就職関係

昭和六十一年度は長く本校の就職指導を担当された佐藤先生や、卒業生の方々いろ〳〵な方の御世話になって大体前年度並みの線を維持することができました。

しかし日本の経済は石油危機以来それまでの高度成長の時代を終っていわゆる低成長の時代に入り円は一ドル百四十円台で推移し円高不況の影響はまだまだ進行すると考えられます。又OA機器の導入により事務職の求人数が激減し大学生短大生を採用する企業がかなり増加し、高校卒の事務職の採用は大変きびしくなっています。それに現業職にあっても各企業はこのきびしい局面に対処するために減量経営につとめ、中には希望退職をすすめたり一時休業を実施したり新規採用を来年は〇にする企業もあります。このままでいくと、三月の卒業期までに就職の決まらない生徒が出ることが心配されます。私たち進路の担当者も以上の認識を踏まえ一層の努力を傾けたいと考えておりますので、保護者におかれましてもよろしく御理解の上家庭における御指導・御助言のほどをよろしくお願い致したいと思います。

☆課程別・校種別分類

校種＼課程		男	女	計	普通科 男	普通科 女	商業科 男	商業科 女	家政科	保育科
大学（学部）	国立									
	公立									
	私立	25	15	40	25	14				1
短大	国立									
	公立									
	私立	3	70	73	3	49		1	5	15
専修学校		29	47	76	28	24	1	7	14	2
各種学校		3	21	24	3	8		4	7	2
小計		60	153	213	59	95	1	12	26	20
就職者		56	174	230	41	45	15	56	57	16
就職進学（再掲）		3	8	11	3	3		3	2	
家事・他		21	7	28	20		1	4	3	
総計		137	334	471	120	140	17	72	86	36

チャリティバザーに御理解・御協力を
亀高生徒会執行部OB会

チャリティバザール

私たちは、亀高生徒会執行部OB会です。去年は、学園祭で初めて小さいながらもチャリティバザーを行い、亀山市の特別養護老人ホーム「清和荘」に物品寄贈をしました。

亀高生徒会執行部OB会というのはどういうものかといいますと、在学中、生徒会の役員経験者や活動に顕著の人が、生徒会活動で共に喜び共に苦しんだ仲間で、卒業後も同級生や先輩・後輩と共に生徒会活動について語りあったり、レクレーションを行ったりして親睦を深め生徒会活動に協力参加しようという目的で、昭和五十五年三月に発足しました。入会は、OB会から勧誘をし希望者に入会してもらっています。最近の活動としては、会報の発行（不定期・年三〜四回）、年一回の総会、サマーキャンプ（清和荘訪問）の協力参加、忘年会、チャリティバザーを行っています。六十二年四月現在、会員は五十名で、顧問は、生徒会顧問の先生に毎年お願いをしています。

前記のような活動は五十九年頃から始めたのですが、最初の頃はまずまずとしても、最近の行事の参加者は十余名とだんだん少なくなっています。各会員も個人で所用があるのと必ずしも日曜日が仕事休みと限らず、全員参加とは行きません。しかし、少なすぎると思い、OB会として何か目標を作ればもう少し参加者が増えるのではと思ったのと、OB会の存在を亀高の先生方にも知ってもらおうと思い、学園祭で何かをやろうと決めました。目標は、在学中から行っていた「清和荘」とし、チャリティバザーをして清和荘に物品寄贈を行うことにしました。そこで、去年十一月十六日限定公開の日に初めてバザーを行いました。少額ながら、四万七千円の収益があり四万円を清和荘への物品寄贈代とし、今年一月十日に六畳敷のい草の上敷を四枚寄贈しました。あと五千円を生徒会へ謝礼とし、残り二千三百円を経費として頂きました。清和荘にはたいへん喜んで頂き、先生方からも好評を頂きました。そして、

今年も絶対行いたいと思っているのですが、問題となるのがバザーで売る品物でらは2回目ということで、そういうわけにもいきません。そこで、丘友会の会員の皆様方にも御理解を頂き、品物となる不用品や手作り品に御協力を頂きたいと思っています。何でも結構です。御自分で「これはどうかな？」と考えずに「いらない」と思えば出して下さい。どうか御協力下さいますよう深くお願い申し上げます。なお、品物は、宅配便で左記へ送って下されば結構ですし、亀高へお持ち頂ければ、生徒会顧問あてへお渡し下さい。また、御一報頂ければ、近くでしたら取りにうかがいます。どうかよろしくお願い申し上げます。

また、学園祭は、卒業生でしたら、招待券なしで入ることができます。どうか、その時は、御来校になって下さいバザーを御覧になって下さい。お待ちしています。

品物の送り先

〒五一九―一三
三重県阿山郡伊賀町柘植
三四〇三
中原聖文（きよふみ）
（〇五九五四五）四四四五
〒五一九―〇一
三重県亀山市江ケ室三五
一一二
小倉弘樹（ひろき）
（〇五九五八）二一六二三三

脱皮に苦悩する家政科の昨今
家政科主任　北原カウ子

本校の家政科は昭和二十三年度の発足の時には二学級でしたが、社会生活、家庭生活の変化とともに昭和二十八年度より三学級になり以後五十六年度まで十九年間時代の要請にこたえて、その内容の充実につとめてまいりましたが昭和五十七年度に至り再び一学年、二学級に縮少されました。

先輩諸姉が築いて下さった古き良き時代の家政科の伝統を受け継ぎ更に新しい時代に適応出来る生徒を育成することを目指して一同微力ながら力を合わせてその方法を模索している日々でございます。時代を越えて時代に適合した多くの体験学習の中から個ひとりに秘められた能力を導き出し伸ばしてゆく教育こそ家庭科の基本的な変わらざる使命と考えております。その点から最近の家政科の内容をご紹介いたしますので時代の息吹を感じとっていただきたく存じます。

(1) 高令化社会に対応できる職業人を養成するため外部講師による技術の習得を行っております。

(2) 一人一人の能力を開発するため、家庭科技術検定の全員受験を奨励しています。過去三年間技術検定事務局として県下の水準向上のため努力いたしました。お蔭様で和裁、洋裁、調理の一級三種目合格者数も年々増加し、本校でも毎年数名が全国家庭科教育振興会から全国表彰を受けるまでになりました。

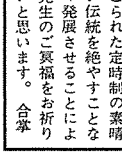
(3) 昨年夏、全国高校家庭クラブ大会が四日市で開催され本校は研究展示部門を担当し生徒共々伊勢（鈴鹿）の伝統工芸の伊勢型紙を製作展示しました。その時の作品の一部を校長室、会議室、玄関等に今も飾っております。本年度から一年生でその基礎技術を家庭科に取り入れ個ひとりの興味関心をひき出す努力をしています。

(4) 作法の講習、講演会、洋式テーブルマナー、校外実習として懐石料理の試食会を実施しています。又、年間を通じて奉仕精神、責任感、指導性、協調性を身につけさせるため家庭クラブ活動を実施しています。

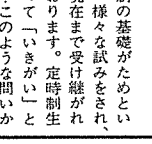
その他「チーズの食べかた」作文コンクール入賞する等選々とした歩みながら「家庭科の特色づくり」魅力ある学科づくりに努力しております。

又、昨今高校や大学の進学がとかく学力偏重ということで、いわゆる輪切進学、偏差値進学を打破するための種々のアプローチがなされておりますが、本校家政科も昨年度より推せん入試制度をとり入れました。一般選抜に先立って面接を実施し、面接を通して特に家政科の勉強についての意欲を重点にも集団面接をとり入れました。本年度は更に推せん枠を広げる予定です。

この制度は是非成功させたいものと念願いたしております。昨年度は一般選抜の際にも集団面接をとり入れました。このように種々の方面より家政科の活性化を求めている現況です。今後皆様方の一層のご尽力ご指導をお願いいたしまして家政科の現状報告といたします。



長岡先生を悼む
定時制教頭　鈴村謹爾



定時制の職員室に訪ねてみえたのは四月二十日月曜日、まだ昼下がりの陽射しが残る午後四時頃でした。入り口にたたれたそのお顔は、木漏れ日に揺れる中庭の木々の緑を背にしてもなおほんのりと紅く、穏やかなまなざしで、三年前まで毎日通われたと同じ、軽やかな足取りをしていらっしゃいました。半年間の闘病生活、病から解放された喜びの心境、これからの人生設計などを淡々と、希望にあふれた口調で語られて、三十分程でお帰りになられたのでした。私とも職員一同ほんとうにお元気になられたものだと心から喜んでおりました。しかしそれは、虚無の深淵あるいは漆黒の闇にも似た「死」を迎える前の一瞬の生命の輝きであったことを、私達はそれから二十日後の余りにも唐突な訃報によって知らされたのでした。

降り出した五月の雨に濡れながら永訣を告げに集った多くの定時制卒業生の顔触れはそのまま、先生と亀山高校定時制との深い結びつきを物語っていました。

長岡先生の二十八年にわたる亀山高校在職期間中、三十六年から四十年の四年間を主事として、五十年から退職されるまでの九年間を教頭として、また専任としての二年間を含めますと亀山高校での半ば以上の年月を定時制教育に費やされたことになります。特に教頭としての九年間、亀山高校定時制の基礎がためというべき、様々な試みをされ、それは現在まで受け継がれてきております。定時制生徒にとって「いきがい」とは何か？このような問いかけを常に自らに課され、その中から数々の実践への取組がなされます。昭和五十六年、教育課程の改訂に伴う研究発表では、全日制二校定時制一校の中に本校が選ばれ、総合制高校の利点を取り入れた本校定時制普通科としての特色を出し、学校行事の在り方についての報告は、定時制関係者の広い注目を集めました。練習時間の不足等、宿命的な悩みを持ちつつ毎年いくつかのクラブが三重県高等学校総合体育大会に参加、入賞。全国大会への出場も度々果たしております。定時制生徒の生活を赤裸々に語る「生活体験発表会」でも県大会では常に上位に入賞し、五十四年、五十七年、五十八年には県代表で全国大会へ出場、それぞれ二位、四位、二位の栄冠を勝ち得ました。また五十四年には、勤務を持つ身の定時制生徒には実施困難と見送られていた宿泊研修を導入、生徒相互の友情、生徒教師間の交流親睦に大いに貢献され現在に至っています。

数々の試みに着手され、それらがすべて輝かしい伝統となって今に至っているのも、長岡先生の定時制生徒に寄せるご慈愛があったればこそでありましょう。私たちは、先生が大切に育んでこられた定時制の素晴らしい伝統を絶やすことなく益々発展させることによって先生のご冥福をお祈りしたいと思います。合掌

特集　卒業生は今……

豊かな心を育てよう

三重県教育委員会
文化課（出向）　西村栄二

高校生のころは望みが大きく、将来何にでもなれそうな気持ちになるものです。私は放送部に入っていました。ジャーナリスト志望です。一方で科学者になるのもいいなと思っていたのですから、幸せな時代です。今のように受験競争も激しくなく、クラブや生徒会の活動が思う存分やれました。

校内放送の設備は真空管式のもので、よく故障を起こして私たちを悩ませました。学校行事のあるたびに重いアンプをグランドや講堂に運んでマイクのセッティングをするのですが、肝心のときに鳴らなかったりして先生や先輩のひんしゅくを買ったものです。いまはトランジスター式の軽いアンプと高性能の録音器やマイクがあるので、ずいぶん楽になっています。

大学を卒業して理科の教師になりましたが、クラブは放送部の顧問です。高校生のときの夢が縮小されて、ささやかながら実現したわけです。

教師になってからすでに二十八年になりますが、社会の変化につれて生徒の意識や生活様式も大きく変わってきました。近ごろの高校生を見ていて感じることは、自分の個性や好みを大切にし、あまり大きな望みを持たなくなったことです。それだけ大人になったとも言えますが、いまの高度に成長した社会では若者を本当に生かすような未開拓の分野が少なくなったのかも知れません。

しかし、私たちが持っていない鋭い感性やひらめきを身につけている高校生も少なくありません。特に音楽、ファッション、コンピューターなど若者の柔らかい頭脳には太刀打ちできません。ともあれ、多様化したライフスタイルが高校生にも反映し、いまの高校生は実にさまざまな考え方と生活をしています。これを従来のような画一的な教育では処理し切れなくなっています。今後ますます教育の個別化が進むでしょう。学校や教師というものは、生徒たちにとって自らを変革するための知的環境であると思います。新しいことを学び、教師や友人との触れ合いを通してそれぞれの経験や思考の幅を広げていく、そして新しい事態に的確に対応する力をつけることが教育であり、学習であろうと思います。学校で習ったことは社会ではあまり役立たない、学校の秀才は必ずしも社会のそれではないとよく言われます。教科書の字面だけを追っているのではその通りでしょう。私は、一生勉強の種はつきない。必要に応じて勉強すればよい。学ぶ気持ちがあって学習が成り立つ。学校は学び方を学ぶ所だと生徒たちに言っています。

今は「物の時代から心の時代へ」と言われます。生徒一人一人の個性に応じた豊かな心情を育むために、クラブ活動は大きな役割をはたしています。

今年十一月に近畿八府県の高校生が三重県に集まって芸術文化の発表会を行います。この「第七回近畿高等学校総合文化祭」は、四日市市文化会館を中心会場として音楽、演劇、マーチングバンド、美術・工芸、書道、写真など多彩な催しが繰り広げられます。私はいま県教育委員会に出向してこの大会の事務局を担当しています。

昭和六十九年には世界祝祭博が三重県で開催されます。その頃には今の高校生が二十代後半の青年としてこのイベントに積極的にかかわっていることでしょう。より広い範囲の仲間と触れ合うことによって、若者の芸術文化が質的に向上し、ひいては地域文化の発展に寄与してほしいと願っています。この面でも丘友会会員諸氏のご協力を賜りますようお願いいたします。

（第七回卒　亀山高校教諭）

音楽部の思い出

中山春江

まだまだ若いと思いつつ、それでも亀山高校を卒業してから三十年と少したちました。亀山市内に住む私には、亀山高校を眺めても、なつかしいという気持ちには、なかなかつながらず、まるで自分の庭のような慣れ親しんでいる一つの場所にすぎません。それは、たびたび生徒の受験に付き添って行ったり、自分の娘たちも入学し、卒業し、という私自身の生活が、亀山高校のその後の変化をも含めてすべて吸収し、今もその中で生きているからでしょう。そんなぜいたくなことを言っていると、遠く離れた友人から叱られそうです。

過去をまるで忘れていた私に、突然この原稿を依頼され、うろたえました。が、ひもをたぐるように心の奥底を眺めてみると、いろいろなことが見えてきます。

なかでも、三年間の中での先生、先輩、友人、後輩とのおつきあい、そして、一つの事をなしとげた大きな体験は、現在の私をしっかりと支えてくれております。

（懐先輩はあまりにも早く、京大在学中になくなりになりましたが……。）

当時、音楽部はNHK合唱コンクールで、三重県では連続優勝しておりました。その伝統は、学校の大きな大部分を占めます。オジーチャンこと園田先生、よく指導に来てくださった臼井康雄先輩、岡本先輩。私たちが尊敬とあこがれの熱い目を注いだ三年生の豊田先輩、小松先輩、すばらしいピアニスト、岩間先輩。二年生の田中先輩、楠先輩、その他、多くの上級生の方々。そして、私たち一年の仲間たち。更に、その後の後輩のみなさんたち。本当に楽しい日々でした。今も、皆さんお元気でしょうか。

当時、音楽部はNHK合唱コンクールで、三重県では連続優勝しておりました。その伝統は、学校の大きな誇りでした。が、自分たちが、いざ三年生になると、大変な重荷になってかえってきました。悲痛な思いでコンクールに臨んだものでした。私はピアノ伴奏をしていたのですが、今も指に汗がにじむ思いがよみがえります。そして、強敵、津高、四日市高をしのいで「一位、亀山高校」の声を聞いた時のうれしさ。そのあと、津の海岸を走り回ってよろこび合ったことが、うれしくなつかしく思い出されます。

卒業後、多くの方が、音楽の専門の道に進まれました。私は地元、三重大学で音楽を専攻し、教師になりました。そして、二十七年の教師生活を続けて、二年前、自子中学を最後に、退職いたしました。

今は、野菜をつくったり、花を咲かせたりしながら、最近は日本画を習い始めました。

きょうは外には六月の雨が降り続いています。古い木造校舎に降るその雨と、音楽部の発声練習の声と、しめったピアノの音が、三十年の時をこえて聞こえてくるような気がします。ほのぐらい中に自転車置場のはの泰山木の大きな葉から、したたり落ちる水滴が、見えるような気がします。

（第八回卒　旧姓山本）

源は鈴鹿の流れ

―今日ある私―

早稲田大学教育学部教授
理学科地学教室　坂幸泰

ちょうど二十年にわたって早稲田大学教育学部で地質学の教鞭をとっています。

鈴鹿川辺りに住んでいた私には鈴鹿川で水遊びしたこと以外に幼少の頃の「夏の思い出」はほとんどありません。ある日のこと、上流で法定伝染病が発生したか、大雨の直後で危険なほど水量が多かったかして、親に川での遊びを厳禁されました。が、禁を破って二つ違いの弟と川で遊び、何くわぬ顔をして家に戻った途端、母親にみとがめられ、川遊びが露見してしまいました。大目玉をくったあと、恐る恐る何故ばれたのかお伺いを立てたところ、二人の全身に黒雲母が付着していたからである、とのホームズばりの回答を得ました。今にして思えば、鈴鹿川の上流は、黒雲母を体積にして十～二十％含む花崗岩や片麻岩の地帯であり、身体を乾かしたからにはもう大丈夫という猿知恵は地質学的に見事に裏切られてしまった訳です。地区の子供会で、鈴鹿川の河原の石集めをしたこともあります。流域の地質が単調なので、そんなに何種類もの岩石がある訳はないのですが、それでも、形や色に魅せられて石を拾い集めました。

大学で地質学を専攻するまでに私が経験した地質学上のことがらは、記憶にある限りたったこれだけです。だのは、在籍した理学部の他の専攻よりはとつきやすそうだという、甚だ情けない動機からでした。動機は情けなくても、長らく専攻していればその分野にも愛着も生まれ、専門家としての自覚も生じてきます。今、接している学生諸君には、無論、こんなだらしないいきさつは告げていません。嘘をいうわけにもいきませんから、もっと積極的な動機で地質学の道に入ったんだと学生が錯覚するような言動をとっている次第であります。

実は、私の所属する地学専修に入学する学生の八割までが高等学校で地学を履修していません。この八割の諸諸君の多くが地学を研究したくて我が専修を選んだとは到底考えられません。地学の内の、大学では扱っていない天文学や気象学をやりたくて入学した（進学校調査が不足の）気の毒な学生もいます。

そのような事情がわかってはいても、いや、わかっているからこそ、「実は俺も入学時には地学を知らなかったんだ」といって慰めるようなことは一切しないことにしています。「諸君は義務教育でもない大学に、わざわざ地学を勉強するために入学してきたものと認めてその積もりで接する」と前置きして早速に本論に入るのが第一回目の講義の常です。

卒業と同時に「地学よおさらば」とばかり全く無関係の分野に飛び出していく者も多いのですが、それはそれで構いません。しかし、入学時、地学のチの字も知らなかった学生が、ひとかどの「地質屋」として斯界に勇躍していくのを見るのは楽しいものです。何年か経って、私のよく知らない専門用語を駆使し、自分の仕事ぶりを説明してくれる卒業生を研究室に迎えるのはもっと楽しいことです。

（第九回卒）

雑感

神戸高校司書　福島恭子

見渡す限りの新緑が日射しにまぶしくかがやく候となりました。

丘友会の皆様方には、お元気にご活躍のことと存じます。

さて、母校の丘友会のお世話をして下さっている先生から原稿の依頼を受け、文章のにがてな私のこと一時はためらいましたが、係の先生も大変なご苦労ということ、やむなく引き受け紙面を汚すことになりました。

ふり返ってみますと、昭和三十三年、亀山高校を卒業し、その年に母校で勤めさせていただくことになり、以来、昭和六十年まで学生時代を入れますと三十年間、私の人生の大半を亀山高校と共に過ごさせていただいたことになります。その間、私ごとではありますが一時断念した大学も、先生方の温かいご支援をいただき卒業することができました。

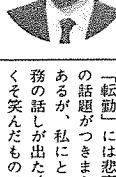
校舎も私が学んだ一部に鈴鹿高女時代もあった旧校舎から近代的な校舎に移り変わる様子を一抹の寂しさを感じながら目にしてきました。なかでも、運動場の南側の低い松林の丘は、鈴鹿川の流れや、川にそって走る汽車が見降せ、放課後友達と語らうには恰好の憩いの場所でもあり、思い出の場所でもありました。それがブルドーザーによって無残に削り取られていく様には、時代の流れとはいうものの心が痛みました。今では立派な校舎に変わっています。

昭和六十年の異動により、母校を去りましたが、今だに新聞に載るクラブ活動等の成果に「亀高」の文字を探している自分に気づきます。亀山高校は三年間学んだというだけでなく、社会人として踏み出した始ッての職場でもあったという感慨が、いつまでたっても忘れられない存在として私の中に残っているのだと思います。私達の時代に比し、校舎も立派になり、設備も県下に誇れる学校となり、器は立派にできあがりました。後は中味です。そのためにも後輩の皆様には、なお、いっそうの活躍を期待し、母校亀山高校の発展を心から願ってペンを置きます。

（第十回卒）

「いれぶん」讃歌

関西日本電気ソフトウエア㈱
営業管理部長　水谷理



昭和六十一年七月一日付で、大阪の現在の会社に出向することになった。昭和三十四年亀高を卒業以来、学生時代を含め一貫して関東暮らしであっただけに、約二十七年振りに故郷の近くへ帰ってくることになった。サラリーマンにとって「転勤」には悲喜こもごもの話題がつきまとうものであるが、私にとって大阪勤務の話しが出た時、内心ほくそ笑んだものである。新天地での新しい仕事に対する期待感もさることながら、プライベートな面での楽しみがあったからである。関東にいてもこの十数年来、年に一～二回は帰省して、親しい友人とゴルフをしたり、飲んだりして旧交を温めていた。今後は疎遠であった他の多くの友人とも遊び、語る機会が増えるからである。私たち普通科才十一回卒業生の同窓会は「いれぶん」と銘打って、現在は三年に一度開かれている。その企画、運営、出席人数などからみて、結束が固く、かなり活発であると思っている。何よりも世話役に人を得ている。会長の吉田正彦君を中心に、小菅洋幸君、近沢日出夫君、今西康隆君、そして豊田実君、など地元でそれぞれの道で立派に活躍をし、陽気で世話好きのお人好しが揃っている。故郷を遠く離れている者にとって、大変心強く、有難いことだ。昭和五十六年の秋だったが、関東地区にいる「いれぶん」同窓生による懇親会を、横浜の中華街で行なった。その時わざわざ倉田康夫先生まで引張り出し、吉田、近沢、今西、豊田の面々が来てくれたのには恐縮した。和気あいあい、にぎやかなあの時の情景は今だに鮮明に覚えている。これからは、会の充実・発展に積極的に協力しなければいけないと思っている。大阪にも、仕事にも大分慣れてきた。同窓生とも出来るだけ、会ったり、連絡したりしている。今後とも友人とのふれあいを大事に、更に充実した日々を送るよう努力したい。

（第十一回卒）

亀山高校テレホンサービス
行事やクラブ活動の情報が、いながらにして、得られます。
☎〈05958〉3－0500

今年の部活動についての報告

亀山高校教諭　平岡一能

拝啓　丘友会々員の皆様
日々御健勝で御活躍のこと、存じます。
今年も丘友会の新聞が発刊される季節となりました。
先日、編集局長の平尾先生から「平岡先生は本校のクラブ活動後援会の窓口ですし…」今年もクラブ活動に関すること、何でも良いから是非〆書いて下さいとついに押し切られてしまいました。元々文才の無い私ですから、悩みに悩んだあげく、やっと期日に出来上ったのが…これです。文と云うよりは、単なる報告書の様な物になってしまいましたが御許し下さい。
先は今の亀山高等学校の規模ですが（最近卒業された方はよくおわかりでしょうが）全クラス数が三十三、普通科十八学級、商業・家政が共に六学級、それに保育の三学校で生徒総数が千四百三十八名、又定時制諸君の六十九名を加えますと、正にマンモス校と云えるでしょう。（生徒数の多い順では、県内の県立高校では三番目にランクされています。）大きいことは良いことだ。数の多いことはすばらしいことだ…と全ての面で胸を張っていたい気持ちもありますが……逆に大きいだけに、三年間一度も授業せず、又クラブ活動も勿論のこと各種委員会等々でも、顔を合わせることのない生徒諸君が毎年数多くいます。同じ学校にいながら人によりますと話し合うこともあります。それに二十名以上は剣道、ソフト、野球、少林寺の各部と、それに山岳があります。（以上は、いづれも、男女込みの部員数です。）
文化部は、七十五名の天文を筆頭に　二位　華道　三十五名　三位　新聞　三十三名　四位　吹奏　二十九名　五位　漫研　二十七名　六位　フォークソング　二十五名　七位　茶道　二十三名　八位　美術　十六名　九位　書道　十八名　十位　演劇　十四名　それにJRC、放送　写真があります。定時制のクラブとしては、野球　バレー　バドミントン　卓球　テニス　柔道　それに今年からソフトボール部が出来ています。
今後共会員の皆様方の暖かい応援を切望して筆を置きます。

徒に接する機会が少なくなり、残念ながら一部生徒指導面の手ぬかりが生じることもいなめない事実であります。
数年前から本校では機会あるごとに「亀高のイメージをアップするにはどうするべきか…」のテーマについてよく話されますがやはり部活動が最も良いのではないかとの結論がこのところ出つ、あります。部活動を推進するに当っては部によってまだまだ差はありますが今迄以上に体制が前進しつ、ありますし、又この所情熱的な顧問も増えたためか今年の運動部員数はいつにもなく多い上、全体的な活力がぼつぼつ出てきていますので喜んでいます。ただ対外的な成績にありましては今しばらく御待ち下さいとここで申しあげておきます。どの部も若いメンバーが多いだけに、今後　大いに期待出来るものと思います。
以下は四月登録の部員数を紹介しておきます。
運動部　一位　ウエイトリフティング　四十五名　二位　バスケット　四十四名　三位　ハンド　四十二名　四位　バレー　四十一名　五位　軟庭　三十八名　六位　バトン　三十六名　七位　バドミントン　三十五名　八位　卓球　三十四名　九位　サッカー　三十名　十位　陸上　二十五名
それに二十名以上は　柔道　剣道、ソフト、野球、少林寺の各部と、それに山岳があります。（以上は、いづれも、男女込みの部員数です。）
文化部は、七十五名の天文を筆頭に　二位　華道　三十五名　三位　新聞　三十三名　四位　吹奏　二十九名　五位　漫研　二十七名　六位　フォークソング　二十五名　七位　茶道　二十三名　八位　美術　十六名　九位　書道　十八名　十位　演劇　十四名　それにJRC、放送　写真があります。定時制のクラブとしては、野球　バレー　バドミントン　卓球　テニス　柔道　それに今年からソフトボール部が出来ています。
今後共会員の皆様方の暖かい応援を切望して筆を置きます。

陸上を通して

陸上部　藤井美幸

皆さんは陸上競技についてどの様に思われていますか。
「ただ走るだけなのにどこが楽しいの？」とか、「走っている時、何を考えてるの？」とか、私が長距離をしているから特にだと思うんですがよく人から聞かれます。しかし陸上ってただ走ってるだけじゃないんです。走る為に色々なことを取り入れて、そして種目も障害とかヤリ投げとか走り高跳びとかいろいろあります。
その競技種目のどこがいいか、それはその競技者だけが理解できる特別なものだと思います。それと、どの競技にも共通していることは苦しい練習を乗り越え、そして目標に達ったときの喜び、快感だと思います。
今の陸上部は、私たち三年生の入学と同時に着任された坂元先生と共に築きあげた部です。始めは、先生の交代もあって先生と部員たちとの意見が合わなかったりとうるさかったりとハラハラした時期もありましたが、ようやくまとまりのあるクラブになったと私は思います。クラブに対する意気込みが、そしてつながりが明確に全部員に表れだしてきていると実感しています。その成果は試合結果からもうかがえることができます。初めは誰も行けなかった東海大会に、昨年は女子ヤリ投げで小倉さとみさんがインターハイ予選で五位入賞で出場。そして今年、二名の選手が東海大会に出場します。悔澤ゆか（三年）一〇〇M障害第五位入賞、西口和成（二年）砲丸投六位入賞、そして後一歩だった松本弥生（二年）砲丸投第七位入賞、円盤投第七位、伊藤真美（二年）一〇〇M障害第八位、小倉功之（二年）ヤリ投第八位、そして他の部員は入賞はできなかったけれど自分なりに努力して記録を伸ばしました。
三年間を振り返ってみて、楽しい事よりもむしろ苦しかった事の方が多い中で、先生や先輩に励まされ同級生や後輩たちと励ましあって、ここまでやってこれました。陸上によって得たものは、陸上のすばらしさだけでなく人との交流と共に、何事にも代えることのできない時間、思い出です。
それは、これから社会へ出たときの支えの一つとなるでしょう。

我が柔道部

マネージャー　辻本文枝

現在、二年生男子一人、女子四人、マネージャー二人、一年生男子一人、女子八人、マネージャー二人、計十八人の柔道部です。男子が、たったの二人ということで少し寂しいですが、OBの方が時々来て下さるので、助かっています。それと何よりもうれしかったのは、一年生がマネージャーを含めて、十人もはいってくれたことです。おかげで二年生は心がひきしまって、練習も以前より一層、活気がでてきました。
毎朝、八時から八時二十分まで、ダッシュ、ジャンプ、鉄棒、腹筋、背筋等の早朝トレーニングをしています。そして木曜日は、レクリエーションとして、ソフトボール、雨の日は、バドミントンやバスケットボールをしています。昼休みは、腕や足の筋力アップのために、ウエイト・トレーニングをしています。
放課後の練習内容が、三年生が引退されてから新しく変わりました。試合で勝つためのポイントである組み手を生かすために、組み手争い、組み際の勝負というのを新しく入れ、昔やっていたという、移動立技打込みと三人立技投げ込みを加え、さらに一番基本で重要なすり足にも重点をおき、打倒四日市商業を目標に頑張っています。
ここで五月三十日、三十一日、六月一日に行われた、県高校総体の成績を報告します。男子の団体戦は、対朝明高校で、念願の一回戦突破を果たしました。二回戦は対日生第二高校で、二対二の五分で最後の大将戦で試合を有利に進めていたのですが、あと一分余りのところで一本負けし、惜しくも涙を飲みました。男子の個人戦は、残念ながら体重オーバーで一人失格者を出しましたが、三人二回戦まで進みました。女子の団体戦は、一回戦対桑名西高校で二対一で勝ち、準決勝は対桑名北高校で一対一の同点、しかし内容の差で、惜しくも負け、三位でした。女子の個人戦は、山下真紀主将が七十二kg以下級で優勝、松井明子副主将が同じく七十二kg以下級で準優勝、一年生の豊田恵さんが六十六kg以下級で三位、同じ一年生の落合おりさんが七十二kg超級で三位、四人が東海総体に出場することになりました。
私が一番心配していることは選手の怪我です。柔道に限らずどんなスポーツでも、怪我はつきものです。しかし、友達が、心を入れ変えて、みんなを暖かく見守れるような、そんなマネージャーを目指して、努力していきたいです。そして選手は、打倒四日市商業と、インターハイ出場を目標にして、一歩一歩前進していってほしいです。

自分の敵は自分なんだ

ソフトボール部主将　平井美糸

中学の時からソフトボールをやってきて、もう四年近くもやっている。四年もやって何が楽しいのかやっている自分でもよくわからないけど、とにかくソフトボールは口では表す事ができないほど心を魅きつけて、夢中にさせる何かがある。
毎日、朝早くから夜遅くまで練習して、時にはみんなと同じように遊びたいと思う時もある。でもそれをがまんして遊びたいという自分の軽い気持ちを振り切って、どんなに苦しい練習も最後まであきらめないで自分を苦しめ耐えぬいて、そしてやっと自分に勝てると思う。練習中、心臓が爆発しそうになってきて、もうこれ以上ダメだ出来ないと、諦めてしまいそうになる。でも、もうちょっとたとえ一歩だけでもいいから、もうちょっとだけでもやってみようとやってみる。そうやって最後までやり通した時やけに自分が大きく見える。しかし、もうダメだと思って諦めてしまった時は、自分が情けなくて仕方がない人間に思えてくる。あの時にもうちょっと我慢したら…って悔いが残ってしまう。あの時に諦めるか、諦めないかのちょっとした差でどれだけ根性がつくかどれだけ大きい人間になるか分かれてくると思う。だから私はそんなみじめな思いはしたくないから、どんな練習も全力でぶつかっていく気持ちでやっている。別にみんなより遅れてもいいから、とにかく部員全員が諦めるという事をしないで最後までやり通す人間になってほしい。
三年生の先輩が引退されて私達が最上級生となった今、すごく大変だ。先輩方が今まで築きあげてきた伝統を傷つけぬよう頑張ります。口で言うのは簡単だけど、実際実行する事は難かしいと思うけど、自分達のやれる所まで精一杯やりたいと思う。
そこで私達は「全国大会出場」というとても大きな目標です。それを達成する為に、毎日少しの時間も大切にして練習内容もとにかくプラスになり満足できる練習を、と心がけています。他校のチームはとても高校生とは思えないほど大きな体をしていて、パワーもすごいんです。それに比べ私達はみんな小さくてパワーもなさそうに見えるんです。身体が小さくても気持ちは大きくもって、これからどんどんトレーニング等でパワーをつけます。そして内容的にも強くなって、石にかじりついてでも目標を達成してみせます。

長岡先生の厳しさ

津東高校教諭　野田和章（第9回卒）

一年間であったが、定時制の職員として長岡先生のお世話になった。
先生は仏門に仕えるだけあって、温厚篤実、柔和な方で、会議のときなど自分の意見はあまりおっしゃらず、他人の言にじっと耳を傾けてみえることが多かった。
生徒への訓話も、理屈っぽい言い方はなるだけ避け、ご自身の体験や説話などを例にひいて、じゅんじゅんと説いて聞かせるという風情であった。まさに法話の趣きがあった。
集会で生徒が落ち着かず私語の多いようなときでも、大きな声を出されるようなことはなく、ただ黙って壇上に立って目で諫められるだけで、生徒たちはしだいに静かになった。
温厚なお人柄であったが、生徒の鍛え方はなかなか厳しいものがあった。それを見せつけられたのは、定時制通信制の生活体験発表大会に出場する生徒を指導されるときであった。何度もダメを出して原稿を書き直させ、放課後の練習も満足の行くまで何度でもやり直しをさせられるのであった。まるで演出家と演技者の関係で、そこには信頼する者とされる者の快い緊張があった。
その甲斐あって、亀高定時制は、先生在職中に県大会知事賞（第一位）四回、全国大会労働大臣賞（第二位）二回の成績を残した。
先生の趣味の一つに囲碁があり、ときどきそのお相手をさせていただいた。一言でいうと、先生の碁は、「おとぼけ碁」であった。何くわぬ顔でワナをしかけ、こちらが勢いこんでしかけるとその落し穴にはまってしまう。そこで先生は、してやったりとばかりニヤリと笑われるのであった。けれども、勝敗にこだわれるようなことはなく、真に遊びを楽しんでみえる風であった。
先生は定年を待たずして勇退されたが、そのときの職員へのあいさつの中で、疲労が取れない感じがするという意味のことを述べられた。先生のその言葉を精神的な意味に解釈していたのだが、ひょっとするとそのとき既に先生は宿痾のとりこになってみえたのではないかと今になって忖度する（先生は愛煙家であった）。
先生は退職されて本当に肩の荷を降された感じであった。これから余生をゆっくり楽しもうというその矢先にご逝去された。どんなにかご無念であっただろうと思う。先生のご冥福を祈るや切なるものがある。

今村俊子先生を偲んで

鈴鹿短大講師　伊藤いへ子（旧姓　井川）

今村先生の突然のご逝去の報に（詳しくは中日4月61・12・31）接し、つい十日程0にめお電話を頂き警備保障会社の設備をつくってもらわれたことを詳しく説明して頂いたばかりでしたので驚きも一入でした。丘友会から今村先生のことで何か思い出をとの連絡を受けました時には文章を最も苦手とする私ですのでお断りしたかったのですが四十年間のお付合いを無にするようで敢えて恥を忍んで引き受けました。
先生は兎も角エピソードの多い心の美しい方でいらっしゃいました。同じことを言っても二倍も三倍も愉快に聞こえ、また時には虫の居所が悪いとこちらは何を叱られて居るのかわからないことでも、よく〆考えて見るとそれは物の本質にか、わることに気付き叱られ乍ら感心したこともありました。ひらめきがよく芸術的センスのすぐれた先生は生徒の作品に対しても実に良い所を見出し文学的表現豊かに褒められました。先生の援業は余程楽しかったらしく教えを受けた生徒は家庭でもよく先生のことを話題にしていたと或る親御さんから聞きました。調理実習も私とは対象的で実に大まかにされて私の様は少しも余分が出ないので今村先生の実習のあとでは私の講座の者が「友達に料理のおこぼれをよく貰いに行った」と20年も経ってのクラス会で開かれ、なる程そんな楽しみも必要なのだーなと思いました。S30年頃から手相や諸々の面に興味を持たれ、ひょいと車中で同席された全く見ず知らずの方にでもお手を拝見と言って研究される程の熱心さでした。当時天下に有名な黄小娥様の門を早朝に尋ねられて教えを受けられたことも聞いています。結婚相談所を開設したら…と私が申しましたら黄小娥さんからもそのようにおっしゃったとか。ご退職後第二のライフワークとして結婚相談に情熱を燃やされ随分と人助けをなさっていました。先生を知る総べての人が今は心の隅にポツンと穴が開いた淋しさを味っている方が如何に多いことでしょう。
ご冥福を心からお祈りします。
以上